第５回　理事会

日　時：令和３年９月２日(木) 9 ：00～12：10

場　所：Web会議

出席者：長田会長(議長)，伊藤副会長，清水副会長，
末永常務理事，秋山，池見，稲垣，太田，大沼，
奥村，佐々木，竹村，富岡，長谷川(淳)，
長谷川(信)，舩山，升元，三好，和田各理事
野村，齋藤各監事
欠席者：大谷，小俣，北田，德永，西山，
林各理事
(理事25名中19名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認
・令和３年８月２日開催の第４回理事会の議事録案について承認した.

2. 審議事項

１)会員状況の確認
・事務局長から９月２日時点の会員状況について説明があり，３名の正会員の入会を承認した.
・正会員1,842名，学生会員45名，名誉会員56名となり，総数は1,943名であることを確認した.

２)令和３年度研究発表会の開催方法について
・担当理事より，標記の説明がなされた．審議の結果，令和３年度の研究発表会は会場を使用せず，オンライン開催のみとすることについて承認した.
・審議に当たって以下の意見が出された.
・オンライン開催を決断する時期についての議論を行った．現時点で学会として判断せず，９月12日ごろが想定される政府，自治体の判断を待ち，学会としてその判断に委ねた方が良いといった意見が出されたものの，オンライン開催との判断は安全側の判断となるため問題無いといった見解や，九州支部管内においては新型コロナウイルスへの対応が首都圏と感覚的に異なるといった意見が出され，オンライン開催を支持する意見が多数を占めた.
・現時点では，若年層を中心に新型コロナウイルスへのワクチン接種が十分に受けられないという状況も，オンライン開催を支持する理由となるといった意見が出された.
・昨年度は都内の会議室を使って事務局を設置したが，今年度も同様とするか，また意見交換会，アース・サロンをオンラインの形で実施するか，今後事業企画委員会を中心に検討することとなった.

３)日本応用地質学会表彰について
・常務理事より，標記の説明がなされた．選考結果の文書の一部を訂正すること，表彰状の文言について複数箇所を修正する指摘があり，早急に対応することとなった.

４)JABEE 地球・資源分野運営委員会の運営見直しについて
・常務理事より，標記の説明がなされた．担当理事より運営見直しの背景について補足説明があった.
・応用地質学教育普及委員会において回答案について検討を行い，次回以降の理事会に諮ることを確認した.

3. 本部からの報告事項

１)収支状況について
・事務局長より，令和３年度７月の本部収支予算について説明がなされた.
・会費滞納者への対応について，多くの会員が所属する機関には個別に依頼することを検討することが確認された.
・７月31日，８月７日に実施された第７回応用地質技術入門講座の収支決算について報告があった.

２)モノクロの図，表，写真の電子ジャーナル登載時のカラー化について
・担当理事より，標記の説明があった．J-STAGEへのカラー図表の掲載について，関連する規程類改定に向け，編集委員会で作業を行っていくことを確認した.
・今回の変更点は，J-STAGEへのカラー図表掲載への対応であり，図表に関連する文章の変更や，学会誌での版を組みなおすことは想定していないこと，カラー図表１点につき1,000円の著者負担の算出根拠が確認された.
・委員会，研究部会等が著者の場合，今回のようなカラー図表に加え追加ページといった費用負担が学会内での金銭のやり取りとなってしまう懸念が示され，引き続き検討することとなった.
・今回のカラー図表への対応を踏まえ，執筆要領の見直しも検討した方が良いといった意見が出された.

３)「応用地質」における訂正記事掲載および著者負担について
・担当理事より，標記の説明があった．訂正記事に関して著者負担が発生することを確認した.
・J-STAGEへのカラー図表の掲載とともに，関連する規程類改定に向け，編集委員会で作業を行っていくことを確認した.

４)ダム地質カードカレンダーの国土交通省水資源部長への提供について
・担当理事より，標記の説明があった．ダム地質カードカレンダー，土木地質研究部会作成ポスター「ダムのかたちは地質で決まる！」のアウトリーチに対

する波及効果について，今後注視していくとのことであった．

・ダム地質カードカレンダーについては残部があり，既に各支部に一定数配布したものの，未だに余部があることから，土木学会等学会への提供，学会事務局への訪問者への提供等対応することとなった．

5）「一家に１枚」ポスター選考結果について

・担当理事より，研究企画委員会が企画・応募した令和４年度版「一家に１枚」ポスターが残念ながら不採択となったことの説明があった．今後の利用方法あるいは対応方法について，研究企画委員会で協議を進めていくことを確認した．

・担当理事より，環境地質研究部会ではこれまでジオ・メリットについて学会誌への掲載を行っており，現在ジオ・メリット，ジオパークの保守，保全，あるいはジオ・デメリット（酸性水，道路陥没，鉱山廃水等）に関する検討を進めていることから，情報交換を行いたい旨の意見があった．

・次回の「一家に１枚」ポスター企画には，土木地質研究部会で出されている「ダムのかたちは地質で決まる！」ポスターを参考にすると良いといった意見が出された．

・ダム地質カードカレンダーと「一家に１枚」ポスターは高校に配布することができると良いといった意見が出された．

6）日本ジオパーク学術支援連合からの研究発表会への後援

・常務理事より，標記の説明があった．日本ジオパーク支援連合からの後援を得たことを確認した．

7）防災学術連携体への対応について

・常務理事より，一般社団法人防災学術連携体の2021年度総会結果と，同連携体主催の「令和３年７月３日熱海市の土砂災害に関する緊急集会」，ならびに11月６日開催予定の「ぼうさいこくたい2021」についての説明があった．「令和３年７月３日熱海市の土砂災害に関する緊急集会」の報告があり，「ぼうさいこくたい2021」の対応についても確認された．

・担当理事より，緊急集会による発表を受け，その後複数の関連する講演を行っている旨の報告があった．

8）JSRM/JSEG共催国際火山WSについて

・担当理事より，標記の説明がなされた．シンポジウムはオンラインのみとなること，シンポジウム後の巡検は中止となったこと，73名の参加者が予定されていることが紹介された．

9）他学協会からの依頼

・常務理事より，一般社団法人岩の力学連合会から，「岩の力学連合会賞選考委員会委員」推薦依頼があり，委員として中部支部藤井幸泰会員を推薦することが報告された．

・常務理事より，令和３年度研究発表会への防災学術連携体からの後援名義使用許可を申請することが報告された．

・常務理事より，埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター主催の「“彩の国”市民科学オープンフォーラム」に対し，本学会より後援することが報告された．

・常務理事より，公益社団法人日本工学会から「科学技術人材育成・教育支援に関する情報提供」の依頼について説明があり，今後，応用地質学教育普及委員会を中心に取組みの項目出しを依頼することが報告された．

10）学術情報・コミュニケーションのアクセシビリティに関する調査について

・常務理事より，大沼理事，三好理事協力のもと作成された，標記の調査（アンケート）に対する回答案について紹介があった．

・アンケートの中に「今後，学会の研究大会の情報保障をする予定はありますか」という項目があり，議論の結果「未定」と回答することとなった．

・担当理事より，「情報保障」への具体的対応として，研究発表会に手話の通訳を雇うことや発表資料に字幕を入れるなどの対応が必要であることから，早急な対応は困難と考えらえる旨，情報提供がなされた．今後，学会としての対応を検討する必要があることが確認された．

11）第２回キャリアデザインセミナーアンケート結果について

・担当理事より，標記の説明があった．アンケートへの回答者の半数が非学会員であることから，会員増につなげていく必要があること，自由コメントとして，今後も継続してほしい旨の要望や男女共同参画に偏らず，障害者の方や外国人も含めたダイバーシティを考える必要があるとの意見が出されたことが紹介された．

・理事，監事の所属機関でセミナーの宣伝と演者候補者の推薦依頼があった．

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

以下の委員会，支部，研究部会，特別委員会から報告または資料の提出があった．

1）総務委員会

・支部運営規程については，改定に際し各支部における総会決議が必要であることから，改定案について学会内で協議を進め来年度の各支部総会後に理事会

に諮ること，永年会員・名誉会員を含めた会員種別および会費に関するワーキンググループ，CPDに関するワーキンググループが活動を開始したことが報告された.

2）研究企画委員会

・今年度の先端技術ワークショップは「地質情報の見える化」をテーマとして準備を行っている旨，報告された.

3）応用地質学教育普及委員会

・現在，応用地質学教育普及委員会と将来構想検討特別委員会で教科書執筆WGが活動を開始しており，今後理事会に特別委員会の設立を諮る予定であること，教科書の執筆には多くの協力者が必要となることから，各委員会・研究部会等に今後協力を要請したいことの説明があった.

4）東北支部

・最近の活動として，７月21日に支部研究発表会が対面・オンラインのハイブリッド形式で実施されたこと，今年度支部が30周年を迎えるため，準備のための活動を行っていることが紹介された.

5）災害地質研究部会

・部会ホームページの運用ではNASが役立っていること，令和３年応用地質実践講座「災害地質」では対面での開催ができずに対応に苦慮していること，みんなが知りたいシリーズ「土砂災害の疑問50」では出版社により刊行時期が2022年６月と早期に設定されたため，執筆対応を早急に行っていること，災害碑の研究は順調に進捗していること，直近に起きている災害については調査団を結成しないこと，鹿島学術振興財団への研究助成への準備を進めること等の紹介があった.

・鹿島学術振興財団への研究助成については，締め切りが11月20日であることから，10月の理事会で審議できるよう準備することとなった.

6）支部の活動報告

・九州支部の活動に関する報告があった．研究発表会は学会全体の研究発表会と同時開催であるがオンラインとなったこと，アウトリーチは例年実施している「福岡市中央区安全・安心フェスタ」等は中止となる見込みであること，９月10日に講習会「地熱エネルギーの世界」が開催されることが紹介された.

・中部支部では11月上～中旬に応用地形判読に関する講習会があること，災害碑に関する調査を進めていることが紹介された.

5. その他

・担当理事より，今年度の研究発表会に向け，Facebookの運用を検討しており，事業企画委員会と連携しながら進めていることが報告された.